

初級中国語学習における問題点

許 雪 晴*・王 愛 武**

Some Problems in learning Basic Chinese

Xue Qing Xu and Ai Wu Wang

Thanks to the differences between China and Japan in their Languages, cultures, traditions and customs, Japanese students make various mistakes as they learn primary Chinese. We in this article gather these mistakes of phonetics, Lexicon, sentences and daily conversations, and then compare them with Chinese correct versions and analyze the reasons on the basis of related theory. We expect, therefore, to improve Japanese students capability of learning Chinese.

始めに

中国語入門での能力の上達は下のような分野を通して完成される。

- 1、正しく発音ができる。
- 2、簡体字が正しく書ける。
- 3、正確な文法規則がマスターできる。
- 4、文脈にふさわしい表現が理解でき、応用できる。
- 5、社会文化、風俗習慣が理解できる。

但し、言語習慣の違い、文化の差異によって、学生は新しい言語習慣に適応しにくく、難しいところにぶつかると、中国語の表現意図が分らずに誤解したりして、間違えることがある。教師は問題点を見つけて分析し、説明して正確な理解をさせる責任がある。本文は中国語入門での「発音」、「漢字の書き方」、「文、文型」という三つの方面を出発点として、中国語と日本語の類似点や相違点を比較し、問題点を分析し、言語能力の向上を望む必要があると考えて、以下のようにこの三つの方面から試しに説明していく。

一、発音

1、基本音節

中国語の発音は「基本音節」から始まる。基本音節は単母音、複合母音、鼻母音、子音を含む。その中で、単母音は日本語の母音の発音とよく似ている。例えば、a、o、u などである。子音の一部分も、日本語の幾つかの子音と類似する。例えば、k、s、t、n、h、m、g、z、d、p、b などである。しかしながら、ほかの発音は日本語の発音と異なる。勉強中、学生が正しく発音するのはそんなに容易ではなく、しばしばぎこちない音になりがちである。特に鼻母音と子音の「zh、ch、sh、r」は学生にとって一番むずかしいと言われている。

* 教養部 ** 中国中南大学

鼻母音の ang, eng, iang, ing, iong, uang, ueng を単純に読む時は、はっきり発音できるが、単語の中に入れると、曖昧で時々「an, en, ian, in, ion, uan, uen」という音と混同することがある。例えば、(下の単語はみな一声である)

「n」組	「ng」組
gan 干	gang 刚
jin 今	jing 京
fen 分	feng 风
yan 烟	yang 样
wen 文	weng 翁

中国語では「n」と「ng」の区別がはっきりしているが、学生は音感の差異を明らかにしにくい。「ng」組の発音は日本語の「が行」の鼻音と同じで、舌根および奥舌面を軟口蓋に強く押し付ける。

また、日本語には zh, ch, sh のような巻き舌音がないせいか、学生は常に馴染みぶかい z, c, s と発音する。なぜなら、日本語の「ず、つ、す」と類似するからである。

例えば、(以下の単語の声調はみな第一声である)

zh, ch, sh 組	z, c, s 組
zhong 中	zong 总
chi 吃	ci 次
shuo 说	suo 所
zhi 知	zi 自
chu 出	cu 粗
shen 神	sen 森

「z, c, s」組は舌尖前音で、「zh, ch, sh」組は舌尖後音で舌の先を巻く。発音を練習する時、二組を区別しながら繰り返して、学生を練習させる。その他に、「r」の発音は日本語の「ラ行」の子音「r」と似ているが、少しちがいがあある。中国語の子音「r」は舌先を上曲げたままであるが、日本語の「r」は舌先を上曲げてすぐ落ちる。意識しないと、同じ音になってしまう。

例えば、中国語の「日」を発音する時、心がけないと日本語の「リ」となり、間違えてしまう。

2、声調

中国語の発音には声調の変化があり、社会的言語習慣によって定められている。声調には四つの種類がある。即ち、第一声(平声、平らな声調)、第二声(上声、尻上がる声調)、第三声(去声、低く抑えた声調)、第四声(入声、急に下がる声調)である。声調の変化は高低もあれば、強弱もある。本文を読む時、はっきり発音しないと、不自然な中国語になることがある、そして、聞き手には分かりにくい。

中国語は声調が違うと、単語の意味が変わる。例えば：

	一声	二声	三声	四声
you	优	游	有	又

shu	书	熟	暑	树
ba	八	拔	把	爸
di	低	笛	底	弟
da	答	达	打	大
ge	歌	革	个	各
xue	靴	学	雪	血

その上に、同じ字でも声調が違うと、意味が変わる。

例えば：

漢字	発音	声調	意味
数	shu	三声	責める
	shu	四声	数目
	shuo	四声	しばしば
华	hua	一声	花
	hua	二声	中華
	hua	四声	氏姓
的	di	二声	確かに
	di	四声	まと
	de	無声	所属関係
说	shu	一声	話をする
	shui	四声	説得する
	yue	四声	嬉しい、喜ぶ
发	fa	一声	出す 発送する
	fa	四声	髪の毛
好	hao	三声	よい 立派
	hao	四声	好く 好む

そのほかに同じ漢字でも後の漢字の声調によって発音が違う。それは「不」と「一」という二つの漢字である。

詳しく見ていこう。「不」の本来の声調は四声である。だが、四声の漢字の前に置くと、「不」の声調が変化して二声となる。「不大」、「不是」、「不要」などはその例である。一、二、三声の漢字の前に置くと、四声に変わる。例えば、「不能」、「不说」、「不冷」、「不多」、「不玩」、「不好」など。但し、反復疑問句の場合、声調はなくなる。例えば、「美不美」、「学不学」、「高不高」など。

「一」も「不」と同じように声調の変化がある。

「一」は四声の量詞の前の時、二声となる。例えば、「一个」、「一件」。量詞以外の場合は一声に変化する。例えば、「一日游」など。序数の場合は、一声になる。「第一」、「十一」、「一、二、三」の時は、一声である。一、二、三声の漢字の前では、4声に発音する。例えば、「一周」、「一张」、「一起」、「一本」など。このような声調の変化は複雑なので、迷うことがある。

例えば、「一万一千一百一十一」、その中の、「一万」の「一」は一声で、「一千一百一十一」の「一」は四声であるが、最後の「十一」の「一」は一声で、まったく異なる。以上、述べたように一定の規律はあまりないので、発音する時、前後の漢字の声調に左右される。

中国語の声調はまた重軽強弱の変化がある。軽声とは軽く発音することであり、前の漢字の音節の強勢を補助し、普通、声調符号をつけない。

例えば、「这个」の「个」、「多少」の「少」、「教室里」の「里」、「我们」の「们」、「桌子」の「子」、「什么」の「么」、「谢谢」のあとの「谢」、「衣服」の「服」、「休息」の「息」、「客气」の「气」、「的、地、得」など。

二、漢字

日本語の漢字には中国の漢字を借りて、再加工した和製漢字が多い。その大部分は中国の繁体字と同じな書き方である。しかし、中国では「簡化字総表」の実施をきっかけに、漢字の半数近くは既に簡略化され、簡体字となった。中国の常用字の字画が省略されているせいか、学生たちは言語習慣を乗り越えられないまま、使い慣れた日本語の漢字で書いてしまいがちである。下は、学生が混同しやすい漢字を例としてあげてみる。

乐——(楽)	时——(時)	个——(個)	气——(気)	归——(帰)
业——(業)	张——(張)	园——(園)	谢——(謝)	开发——(開発)
说话——(說話)	读书——(讀書)	铅笔——(鉛筆)	关系——(關係)	
复习——(復習)	买卖——(売買)	观赏——(觀賞)	などなど。	

簡化字には一定の規範がある。繁体字をくずしたり、その一部分だけを取って作ったりしたものである。そこで、授業中、簡体字の偏や旁または囲いの内外などが対応した日本の漢字と、どこかが異なっているか、二者を区別させ、似た所をポイントとして出して解釈している。特に字の組み合わせと書き方を明らかにしている。そして、何回か書かせて言語観念を変えるように工夫している。更に、一部分の単語の意味は中国語と同じであるが、表現方式がやや違うということを授業中、特に指摘している。

例えば、盛开——満開	学会——修得	热——暑い	房间——部屋
真——本当	旅途——旅路	一起——一緒	

だから、中国語を学ぶ時、そのニュアンスの差に力を注がなければならない。

三、文、文型

1、文

中国語の文は主に主語、述語、目的語、限定語、状況語、補語という六つの要素によって構成されている。

文の要素となった最も小さい言語単位は単語である。文法の角度から見れば「品詞」とも言える。品詞は一定の文法的な性質や役割によって分けられる。種類は主に名詞、形容詞、動詞、数詞、助数詞、代名詞、助動詞、副詞、接続詞、前置詞、助詞、感嘆詞などがある。中国語の品詞には形容動詞がなくて、形容詞に属している。

名詞：

名詞の中で、間違いやすいのは一部分の時間名詞である。特に、中訳する時或いは文を作る時、日本語の習慣でそのまま語順を変えないで書き出す。

例：（以下の例文の単語の訳し方は左の方があやまり、右の方が正しい）

毎週の金曜日、町に行く。

五星期——星期五

八時五十分から授業が始まる。

八时五十分——八点五十分

また、文を作る時、常にある名詞を動詞と混同して述語として使う。

図書館で勉強する。

功课——学习

この文の中で「功课」は名詞なので述語として使えないため、動詞の「学习」に変えたほうが正しい。

形容詞：

形容詞の「好」の使い方は多くて複雑なので覚えにくい。 例：

①、よい、立派だ

いいお天気ですね。

天气好啊！

②、「几」や「久」などの前に置くとすると、多量の数量と時間の長さを強調する。

中国へ何度も行った。

好几次

③、挨拶言葉として用いられる。

こんにちは 你好！

お元気ですか。你好吗？

④、動詞の前に付けるとすると、「…しやすい」という意味を表す。

この単語は覚えやすい。

好记

⑤、上手だ

彼女は英語が上手だ。

英语好。

⑥、回復した

薬を飲んで病気が治った。

病好了。

⑦、仲のよい

仲のよい二人

两人好。

⑧、よく

宿題、よくできた。

做得好。

⑨、なんと…ことだろう

紫陽花の花がなんと美しいことだろう。

好美啊！

⑩、眼、耳、舌、鼻などの感覚の感じがよい。

桜の花が綺麗だ。 樱花好美。

この歌はとても美しい。 这首歌好听。

いい香り。

好香。

中華料理は美味しい。

中国菜好吃。

助数詞：

助数詞は数詞に付けて用いられる。中訳する時、しばしば、直接日本語の助数詞で訳す。

紙を一枚もらった。

一枚—— 一张

本を二冊読む。

二册—— 两本

シャツを三枚買った。

三枚—— 三件

鉛筆を一本借りた。

一本—— 一支

前置詞：

中国語の前置詞の位置はちょうど日本語と反対だが、文を作る、または日訳、中訳をする時、常に日本語の語順で書く。

月曜日から金曜日まで授業がある。 一星期从五星期到——从星期一到星期五

公園で遊ぶ。公園在——在公園 紙に名前を書いてください。紙上在——在紙上
 学生に対して難し過ぎる。 学生对——对学生

接続詞「と」も同じように間違いやすい。友達と一緒に遊ぶ。朋友和一起——和朋友一起

代名詞：

代名詞としての「怎么」と「怎么样」の区別が難しい。「怎么」と「怎么样」はときに同じような意味を表すことができるが、違うところもかなりある。

「怎么」の意味は以下のようだ。

①、どう…したら いいでしょうか

どう中国語を学んだらいいでしょうか。

中文该怎么学好呢？

②、なぜ、どうして どうして勉強したくないのですか。

怎么不想学呢？

③、いくら…でも いくら寒い日でも、授業に出なければ。

无论怎么冷也要上课。

④、あまり…ない 歌を歌うことはあまり上手ではありません。

歌唱得不怎么好。

⑤、どうしましたか どうしましたか、熱がありますか

怎么了？发烧吗？

⑥、どのように どのように駅へ行きますか。

怎么去车站？

「怎么样」は形容詞の否定形で用いられる。

料理を作ることは上手ではありません。

饭做得不怎么样。

また、動詞としても使える。

地震は私達をどうすることもできない。

地震不能把我们怎么样。

質問する時

暮らしはいかがでしょうか。

日子过得怎么样？

2、文型

中国語の文型には体言述語文、形容詞述語文、動詞述語文、主述句述語文という四つの種類がある。

体言述語文：

自己紹介する時、いつも「姓」を言わないで、「是」になりやすい。

私は李です。

我是李——我姓李

また、疑問詞「吗」は日本語の「か」に当たるが、特定疑問文になると疑問詞があったら、「吗」を使う必要がない。

それは何ですか。

是什么吗？——是什么？

この教科書は誰のですか。

是谁的吗？——是谁的？

それに、選択疑問文だったら、「吗」を使う必要もない。

これは本ですか、それとも、雑誌ですか。

还是杂志吗？——还是杂志？

動詞述語文：

「有」と「在」は存在を表す動詞であるが、中訳する時、混同しやすい。

教室の中に机がある。教室里有桌子。机は教室の中にある。桌子在教室里。

語順として、中国語では 主語——述語——目的語。中国語に対して、日本語では、主語——目的語——述語。述語と目的語の語順はちょうど逆であるが、中訳する時、

いつも日本語の習慣で訳しだす。

私達は中国語を勉強する。中文学—学中文 友達に電話をかける。电话打——打电话
学生達は話をする。话说——说话 授業の時、携帯をかける。手机打——打手机
形容詞述語文：

この文の否定をする時、否定詞「不」は形容詞の前につけるが、日本語と反対である。

今日は寒くない。冷不——不冷 部屋は綺麗ではない。漂亮不——不漂亮

また、質問に答える時、時々「是，不是」と混同してまちがしやすい。

英語は難しいですか。 はい、難しいです。 是——难

いいえ、難しくないです。 不是——不难

あの花は綺麗ですか。 はい、綺麗です。 是——美

いいえ、綺麗ではありません。 不是——不美

まとめ

以上のように、基礎中国語学習においての問題点、即ち「発音」、「漢字の書き方」、「文、文型」などの間違いやすいところに触れ、二つの言語を比較し、説明を試みたが、不十分なところがまだかなりあり、今後の研究を続けていきたいと考えておる。

参考文献

『中国語基礎』	魯啓華、卞惟行	晃洋書房
『新華辞典』		商務印書館
『中国語文法の基礎』	三野昭一	三修社
『中国語の発音と表現』	平井勝利	金星堂
『中日辞典』		北京・商務印書館小学館
『日中辞典』		北京・對外經濟貿易大学
		北京・商務印書館小学館

(平成16年12月3日受理)